

平成18年度第7回神岡地域協議会会議録

平成19年3月28日(水)午前10時
於 神岡庁舎 大会議室

出席委員

石山美恵子	工藤正悦	今裕子	今野美幸
小林厚子	斉藤兼光	斉藤博伸	佐藤康晴
鈴木和栄	鈴木百合子	竹原健子	小林重幸
細谷洋造	宮原和恵	武藤良仁	

欠席委員

小田原 博 進 藤 純 雄

当局出席者

助 役	久米正雄	企画部長	佐々木正広
総合政策課長	小松辰巳	総合政策課主幹	藤川祐弘
秘書広報課主幹	小野地 洋	支 所 長	鈴木三郎
地域振興課長	佐藤良幸	地域政策考査員	高橋 豊幸
地域振興課副主幹	高橋 勇	地域振興課副主幹	高橋 誠

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 会議録署名委員の指名について

議長指名(8番斉藤委員、9番佐藤委員)

- 5 議題
議長

それでは平成19年度地域枠予算執行方針（案）について説明いたします。

《執行方針の概要説明》

事業案の内容については、事務局より説明しますのでよろしく申し上げます。

地域政策考査員

《資料に基づき内容説明》

議長

どうもありがとうございます。ただ今地域枠予算の執行方針について説明申し上げましたが、この件に関して助役さんから何かご意見などがありましたら伺いたいと思いますが、よろしく申し上げます。

助役

私、昨日は西仙北の方へ出席させて頂きました。今日は神岡ということで8地域のうち2地域だけの出席ですが、やはり地域性が出ているなというように感じました。

自治会の助成というのは、旧神岡町自体は他の地域と比べると、金額的にもかなり行政の支援が大きかったということ踏まえて、自治会の活動を今後どうしてゆくか、自立した活動ということテーマに置いたことが、一つ大きく取り上げられているなと感じました。各地域においても自治会があるわけございまして、市としては自治会の活動というのは、地域に密着した地域に暮らす方々が、自分たちの地域はどうあるべきかを考えながらやっていくし、これからもそういう形で進めていくべきではないかと思っております。その中でこれまで地域が培ってきた、例えば伝統とか文化とかもあるわけございまして、そういうようなものを取り入れて、今後の自治会活動をやっていくべきじゃないのかなと思っております。そういう部分に対する最小限の助成は、金額は些少ですが補助しておりますので、それらの活用と、それから、一部住民負担も伴いますが、相乗効果を上げて頂ければと思っております。

それから、自治会の中での花いっぱい運動ですが、これは30年くらいの歴史あるようございまして、やはりこういうものは引き続きやって頂きたいと思えますし、私も個人的でございまして、家の周りのプランターに花を植えています、春から秋までけっこう手をかけますと花も長く咲いておりまして、そこを通る方々が「あ、きれいだな」という感じで行きますし、花があるとゴミも捨てないという相乗効果もあります。私の家は公民館と小学校の近くですので、子どもたちも通りますが、そこを通る時、朝ですと「お早うございます」と声を掛けていきますので、あいさつ運動にもつながっていくのではないかと思っております。

農産物の直売の関係ですが、やはり神岡地域も農業地帯で平野部ですので、ここでとれる物をいかに都会の方々だけじゃなくて、地元の人が地元の食材を食べてもらうことを、もっともっと進めていかなければいけないんじゃないかと思えます。スーパーなんかで、最近は地元の食材もあるわけですが、ほとんどが他県から来たり外国産であったりしますので、地元の農家で作った物を地元の方々が消費するということは、活性化にもつながりますし、農家の所得向上にもつながりますので、こういうことはもっともっとやっていかなければならない。ただ、その中で今農作物は化学肥料に頼ったり、農薬に頼ったりしてこれまでやってきておりましたが、今後は環境に優しい農業で農作物を作っていくのが大切なことではないかと。特に子どもたちは、最近アト

ピーとかがかなり増えております。我々子どもの時はアトピーなどという言葉は聞いたことがなかったんですが、最近の子どもは特にそういうことがありますので、これは科学的にどうか分かりませんが、やはり化学肥料や農薬に頼った物をたくさん食べてきた影響があるのではないかと、私なりに考えています。そういうのじゃなくて環境に優しい、そして農薬を使わない農作物になりますと、そこには圃場でも畑にも虫とかいろいろなものがまたよみがえってきます。私は今、減農薬で米は全部有機にしております。田植えが終わりますと、虫やドジョウなどいろいろな生き物が、田んぼのあぜを歩くと動いています。この地域でも私と一緒にそういうような活動している、北檜岡の田中喜一郎さんおりますが、田中さんは今年から環境農業にもっと力を入れてやっていくということで、この前も3月11日に未来農業セミナーということをやっております、この6月には農業の環境セミナーというものもやって、そして北檜岡地域を巻き込んでいきたいなということをお話しておりましたので、この地域はそういうものも大事にしていければということをお話して、この19年度の予算を見て感じたところなんです。そういうことをしていきますと、水路にゴミを投げる方も少なくなってきましたし、いろいろなものが相乗効果で出てくるのではないかと思います。

ボランティアの桜の管理の関係ですが、桜も植えまして50年ぐらいすると枯れていきますので、継続した管理が必要ですし、今の老木だけでなく新しい苗木も植えて、将来的に桜の名所を作っていくのも一つではないのかなと思います。

地域の案内板の関係ですが、これはあちこちで要望ありますが、なかなか市としてもやれなくて、旧大曲では花火をデザインした道路案内標識を、ポイントポイントにやっておりましたが、大仙市としてもそういうことをやればいいんですが、なかなかやれないので、神岡地域では地域協議会でこういう地域案内表示板というものも、独自性があるといいのではないかなと思います。

まちづくり交付金を活用して駅舎と周辺の整備をやるわけですが、こういうことを契機として、地域活性化の行事とか案内とか商工業のPRは、時宜を得たものではないかなと思っております。

今回は全部で15事業あって、その内継続が10事業、新規が5事業ということですが、この中で自然景観の保全活動というものがありますが、嶽山麓周辺の自然環境を保全するための散策道とかあるようですが、これに関連して国交省でフットパス事業ということで、雄物川の周辺を散策する道路整備事業というものを、18年度から会議を開いて、19年度から一応5カ年ぐらいの期間で事業を考えているようです。区域としては、大仙市の角間川周辺から大曲の花火の周辺、それから玉川の合流地点、そして神岡の中川原までの計画のようございまして、嶽山の下の方の散策路とか、そういうものも今後計画の中に入ってくると思いますので、この計画とリンクする部分があるのではないかなと思います。19年度基本計画・実施計画のようで、4月以降それが動くようです。その際には国交省と市と住民を巻き込んで、どういう計画にするかということをお話していく形になると思いますので、こういうこともその中に取り入れていければ、いいのではないかなと思います。実際の整備は20年度からというように聞いております。

子どもを守る関係でございまして、大仙市も昨年痛ましい事故が起きまして、それ

以前からいろいろ見守り隊とかやっておりましたが、こういうことは地元では起きないだろうという意識でやっておりましたが、どこでも起きるといふ危機感を持って、物事を進めていかなければいけないのかなと思います。そういう中で、子どもを守る教育活動とか講演会とかは、大変時宜を得ていると感じております。

最後の緊急事案に対するということ、原材料等の絡みですが、その都度予算に盛れないものを緊急にやるということですので、これは神岡地域独自のものではないかなと思っております。

以上ですが、神岡地域の特色が出ている計画ではないのかなと思いました。

議長

はい、どうもありがとうございました。大変地域を生かした事業だというコメントを頂きました。企画部長さん何かありませんか。

企画部長

私のほうからは、助役がほとんど申し上げましたので特にはないですが、どうか自治会の活動は本当にこれからのまちづくりの中心になるものでありますので、ぜひ活性化を保たれるように頑張っていたいただきたいと思いますところがございます。それぞれ総合支所との協働の事業、それから各団体の単独の事業などございますので、ぜひしっかり進めていただきたいと思いますところですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

議長

はい、どうもありがとうございます。委員のみなさん、何かご意見ありましたら伺いたしたいと思います。どなたかありませんか。

細谷委員

産業振興班では19年度の地域枠予算について、どういうことが必要か話し合いましたが、結果的には一つだけで、当地域内の商店は郊外の大規模商店の進出により売上の減が続いております。そこで商品のPRを兼ねて、空きスペースに展示をしたいのですが支援して頂けないでしょうか、ということで盛り込まれております。単純にこれだけの結果にはなりましたが、議論の中身とすると今の時代のインターネットを利用した形で、地域にある個人や家庭や、眠っている特産品というような物を紹介して、出来たら公募して、そこでシルバーを使ってやるような形が出来ないものか、という話も我々の中ではあったんですが、どうもこれは行政の中では制約があるようで、そこまでは無理だという話になって、それはやらなかったんですが、この地域の観光資源みたいなものも、例えば県の見学施設の畜産試験場は平日出来るんだそうですが、子どもたちも各学校から来て見学してるようですが、そういったことを一般で紹介するとか。インターネットはすごい力を発揮すると思うんですよ。そういった意味で、地域の個人で特色ある活動をしている方がいるとすれば、そういうものも取り上げてPRして頂くことも一つの方法でないかと思ったんですが。いずれそういう議論があったということだけは、分かって頂きたいなと思ひます。

議長

はい、どうもありがとうございました

企画部長

市でホームページ開設しているわけですが、それと関わる部分でたぶん広報の4月号に市の情報化計画が紹介されます。そういう面で、今細谷さんの言われたような市からだけ情報を発信するんでなくて、市民のみなさん方からも情報が発信出来るような形にしたいということで、これから順に考えていくというような作業が今進められております。どうかたくさん様々なそういう情報を発信頂きまして、ぜひ特産の開発でも売上にも活用出来たらなあと思っているところです。すぐにはそういう形になっていかないと思うんですが、ホームページを介した形、でそういう部分を拡充していきたいというような考えでございます。どうか折にふれてご指導ご支援して頂ければありがたいなと思っておりますので、よろしくどうかお願いしたいと思います。

議長

それではよろしく申し上げます。その他に委員のみなさんから何か。

斉藤（兼）委員

鈴木会長並びに事務局の方からそれぞれ報告はあったんですが、生活環境班という立場で少しだけお話ししますが、非常に守備範囲が広いわけですが、旧神岡町の場合はこの資料にありますとおり、地域活動・ボランティア活動、言ってみれば自治会活動なんですが、非常に熱心な地域であります。既に40年以上活動を継続している中身もあります。

一つには中川原公園の一斉清掃、それから、大仙市ではたぶん一番先駆けて取り組んでいる、この花いっぱい運動。今年もこうした自治会活動に対しては支援していかねばいけないということで、それなりの予算措置したところであります。

もう一つ特徴的には、やはり自治体に頼っては今はもう財政面でもどうにもならないというような状況下にもありますが、幸いにもボランティア活動が非常に協力している地域でもあります。地域は小さいんですが、このような小ぢんまりとしたボランティアの団体が各地域にありますので、そうした小さなボランティア団体を育成していけば、小さい地域ながらもより住みよいまちづくりに向かっていくと思えます。

この地域枠予算案ですが、金額も500万円の枠の中ではかなりウェイトを占めています。具体的には、神岡の場合は伝統的に種馬所の桜から始まって、中川原の公園までかなり国交省の方でも予算措置してくれており、整備に協力はして頂いておりますが、地元は地元でやれる範囲内でやろうということで、昨年桜ボランティアというものが出来上がったところであります。今月の31日も天狗巣病の後整理ということも計画しておりますし、そういう意味でこの地域枠予算大いに活用していきたいなと思っております。子どもの安全安心やお年寄りの安全安心、生活環境等どこら辺までやれるのか、少ない予算の中でやれる範囲内でやっていこうということで、予算措置をしております。

議長

どうもありがとうございます。地域枠予算の執行方針について、ただ今委員の中から方針が出来るまでの経緯について、いろいろ説明願ったわけです。この件については、また後程何かありましたら意見を伺うことにいたしまして、次に入りたいと思えます。次第の6番その他に入りたいと思えます。最初に当協議会の委員でもあり、自治連会長の小林重幸さんから、一言発言させて欲しい旨お願いありました。というこ

とで小林さんお願いいたします。

小林（重）委員

この度下水道の供用開始にあたり、自治会連合会の関係する児童館並びに集会所は10カ所ありました。その全額補助をお願いしたいということで、市の方へ陳情しておりましたところ、19年度で接続経費全額補助という連絡がありました。当初予算の満額を頂いた当自治会連合会も、今後ともこの自治会連合会の組織に対して、いろいろと地域協議会の方々からご理解を頂きまして、地域の発展に尽くしたいと思っていますところであります。当会に対してご支援を賜りまして御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

議長

どうもありがとうございました。この件については、我々協議会としても大変心配しておりまして、ひとつほっとしているところです。これまで協議会の中でいろいろな提案や要望が出されてきましたが、今回この中から一点に絞って意見交換したいと思います。テーマは子どもの安全対策の取り組みについてです。18年度は秋田県で二つの大きな事件がありました。全国版にも載りましたが、それ以来各地域とも防犯、子どもの安全ということでは大変みなさん気を遣っておるようで、いろいろなやり方を工夫しているようですが、大仙市の場合はどういう取り組みをしているのかということ、市の方から説明頂ければうれしいと思いますが、よろしくお願いします。

総合政策課長

平成18年度こういういろいろな事件がございまして、また、全国的に子どもの安全という問題大きく取り上げられております。大仙市といたしましても、様々な活動を進めながら、子どもの安全に何とか取り組みたいと思っております。

実はこの問題については、当協議会だけでなく、各地域協議会全てが取り組んで頂いております。どこの地域協議会においても、子どもの安全対策というものに非常に大きく取り組んで頂いております。

大仙市では、18年1月から職員による防犯パトロールを継続しています。当初事件がございまして、地元の方々が非常に不安を持っておりましたので、現在も続けております。昨年5月からは市職員、教職員による登下校時のパトロールを強化しています。10月からは公用車17台に青色回転灯をつけまして、防犯活動の高揚を図っている状況です。パトロールは週2回以上を原則として大曲地区を3台、その他の7地区を2台で巡回している状況になっています。また、昨年の10月から秋田おばこ農業協同組合さん、郵便局さん、ハイヤー協会さん、農業共済さん、管工事組合さん等々のみなさんと、大仙市防犯パトロール協力に関する協定を結びまして、こういう方々からも防犯のステッカーを貼って頂きまして、常に子どもを見守っているというような環境を地域に構築しているところです。

警察が進めております、地域安全ネットワークと地域の安全情報を提供する、いわゆるマッピングシステムの構築、こちらにも市としても協力しています。こういうことを続けながら、出来るだけ子どもたちを大人の目で見ているというような環境を構築するために、様々な施策をとっているところですので、ご理解願いたいと思います。

議長

どうもありがとうございます。当地域でもPTAとか地域が主体となって取り組んでまいりまして、ステッカーを作ったり、あるいは登下校時に住民が見守りをするという取り組みがありました。また、全部の地域ではありませんが、一般住民に対してもステッカーを貼って、防犯パトロールに協力して頂こうということもありました。その矢先に、市の方で各事業所と協定を結んで防犯パトロールに協力して頂くということで、独自のやり方は中止したわけですが、防犯に対する意識というのは相当高いもので、今まで大都会の事件だと思っていたことが、ここの農村部でもごく普通に起こるんだなという意識が、地域住民に生まれたと思います。みなさん大変頑張っておられます。そういう当地域の状況ですので、そのことについて、各委員のみなさん意見などありましたらよろしく願います。

竹原委員

教育委員会が本庁にしかないので、各支所にも教育委員会ばかりに頼るのではなく、話を聞いてくれる機関や人物を配置して頂けるような、そんな環境を作りたいと思います。

議長

相談窓口というようなことなんですが、よろしく願います。

総合政策課長

確かに教育委員会は本庁にあります。各地域に教育委員会の機能を持った分室を置いております。実際は各公民館の中に一緒に入っているような状況だと思っておりますが、その分室の方が教育委員会の窓口という立場になっておりますので、そちらの職員にご協議頂ければ、常に本庁の方と連絡が取れる態勢になっておりますので、そのようにして頂ければと思います。

議長

よろしく願います。その他にありませんか。

工藤委員

自治連会長の方から、自分たちのこれまでの活動と市からの助成について、今までの評価頂いたことと、これからの援助について話がありましたが、重複すると思うんですが、先程の助役さんのお話を聞きながら、行政の援助がずいぶん大きかったこの地域は、活動もしたけれど行政の援助もあったが、出来るだけ自立した自主的な活動に移行するように望みたい、というお話しでしたが、確かに自立した活動をもちろん望まれるわけですが、私は自治会の執行部ではありませんが、一地域の会員として考えてみるに、町内会で何か事を自主的に進めようとするれば、どうしても金のかかるものが出てくるが、特に自治会連合会として実施している研修だとか、花いっぱい運動の取り組みとかになると、それぞれの会費の増強だけでは対応出来ないものがいっぱい出てくるわけです。従って自治会活動を活発に、自主運動を進めれば進めるだけ金がかかるわけです。特に会員の他地域への研修なんかになりますと、全てそれらを自主参加でどうぞといっても、決して観光ではございませんので、全体の質を高めていく、あるいは自治会会員の見識を広めるという角度からすれば、やっぱり継続していきたい事業ではないのかなと思うわけです。その時に市からの援助が完全に断ち切られますと、どうしても会費の値上げになるわけですから、地域住民に新たな負担を

求めるということにもなりかねませんので、最小限度の経費の中で最大限の活動をしてゆくということを私どもはモットーにしていますが、財政的な面からの援助もどうか従来どおりお願いしたいもんだと強く感じましたので、その点もよろしくお願いしたいと思います。

助役

確かに財政事情が非常に厳しいもんですから、一部削減はしてきておりますが、全部ゼロにするわけではありませぬので、そこら辺を他地域と歩調を合わせるという形になろうかと思ひます。例えば、研修なんかへ行く時に民間のバス借りるんでなくて、市のバスが空いているんであればそれを活用して頂くとか、予算はないが市の職員を動員して協働して事業をやるとか、そういう形での取り組みはこれからもやっていきますので、そこら辺は遠慮なく総合支所の方と協議しながら、やって頂ければと思ひます。

議長

よろしくお願ひします。その他にみなさん何かありませんか。

佐藤委員

子どもの安全対策についてですが、今までの話は不審者からの安全だと思ひますが、圧倒的にニュースを見ていると不審じゃない人から子どもが殺される、保護者だとか知り合いだとか、そういう例の方が圧倒的に多いと思ひますが、そういうことについて何か対策とかが考えられましたらお願ひします。

議長

もし、何か答えられることがありましたらお願ひしたいと思ひますが。

総合政策課長

確かに昨年起きました事件については、全く家庭内ということで見えない世界もあります。福祉施策といたしまして、また学校とも連携いたしまして、子どもたちの様子について常時気を配るようになっております。今までもそれぞれ連絡調整しておりますが、いくぶん弱かったのではないかと。そういう事件が起きて、市といたしましてもネットワークの強化を図っております。現在庁内に、福祉サイドが主管になると思ひますが、連絡調整のための会議を設置してございまして、その中で、もし、少しでも問題があるような情報があれば、即対応するというような形での態勢の組み直しを現在しております。19年度早々に、そういう協議会が発足する予定でありますので、その中で情報を共有しながら、子どもの安全を図っていきたいという考え方であります。

議長

よろしいでしょうか。その他にありましたら。・・・ないようですので私から、この間新聞で市内のスキー場について、何カ所か閉鎖になるというようなことがございまして、当地域の笹倉放牧場のスキー場も、名前が載っていたように思ひます。笹倉スキー場は、夏場は放牧場並びに小動物、それから憩いの場として、年配の方から幼稚園の方々、もちろん地域外の方も遠くは県外の方も、マイクロバスなどで来て楽しんで頂いております。冬場はスキー場ということで、昭和61年度に開所されまして、いろいろな子どもたちがそこで初めてスキーや雪遊びを体験して、北国ならではの遊

びを身に付けてゆく、ただこれが廃止になると、一部困ったなあという声も聞こえてきます。その場所というのは、安全安心ということであれば、おそらく大仙市一と言わず秋田県一だと思っております。優秀な管理人並びに指導員がおりますので、子どもたちが雪に親しめるようなスキーを教えてくれるという、今まで子どもの心を育ててくれたスキー場だと思っておりますし、また、これからもおそらく変わることはないだろうと思っております。ぜひ収支の面だけで判断されずに、そういうスキー場の役割というものを、ひとつ念頭に置きながら再考して頂ければありがたいなと考えております。これは地域住民の願いですので、ひとつ熱く伝えておきたいと思っております。

助役

大仙市はこれまで各地域にスキー場1カ所ずつありました。10年前、20年前と比較しますと、スキー人口も非常に減っておりまして、利用者はどのスキー場もみな落ちているという現状にあります。そういう中でも従来どおりの形で運営してきているのが実態です。その中では開いていても、ほとんど利用者が来ないという日が何日もあるところがありまして、18年度でやめた南外は利用者もいないということで、地域のみなさんも同意して、閉鎖というような形で施設も全部撤去して、借地でしたので、それを民間の方に戻すというような対応を取っております。方針的には、大仙市としてはリフトのあるスキー場が協和、太田、大曲と三つありますので、最終的にはこの三つに集約出来ないのかということは今考えておるところです。ただ、一斉に他の所をすぐ止めるのではなくて、実態を見ていかなければいけないんじゃないか。そして毎日開場するのではなくて、土日の開場とかいろいろやり方を変えていくのも一つなのかなとも思っております。ですので、19年度ですぐ止めるということではないけれども、基本的には三つのスキー場。というのは、18年度からは小中学生まではリフト運賃無料ということで、その三つのスキー場どこに行っても、小中学生は無料で滑れる態勢をとっておりますので、どうか出来ればそういう所を利用して頂きたいということです。

議長

笹倉スキー場は、確かに高学年にはちょっと物足りないような状態ですが、幼稚園や小学校の低学年にとっては、大変魅力的なスキー場じゃないかと思っております。南外は残念ながら閉鎖されたということですが、こちらは大変緩やかで、また指導的な立場の人も子どものことをよく見ております。今まで事故など起きたことありませんので、何かと忙しいお父さんお母さんたちは、すぐ笹倉スキー場へ行って子どもたちを遊ばせた経緯もありますので、利用者が少ない多いに関係なく考慮して頂けたら、ありがたいと思っております。

助役

実態を十分把握しながらやっていきたいと思っております。

6 その他

議長

質の高いスキー場ですので、よろしく申し上げます。その他ということで、事務局から何かありましたら申し上げます。

地域政策考査員

事務局の方から一つだけお願いしたいと思います。平成19年度第1回目の地域協議会の日程を、この場で決めて頂きたいと思います。予定日を4月16日月曜日午後ということをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長

みなさん特別大きな日程入っている人いますか。中にはどうしても都合つかない人がいるかもしれませんが、4月の16日を予定して下さるようお願いいたします。これをもちまして終了いたしますが、今日協議頂いた19年度地域枠予算の執行方針案については、次回以降協議会で再度内容を検討して順次実施してまいりたいと思います。今後ともひとつよろしくお願ひします。

7 閉会（11時40分）

神岡地域協議会運営規定第7条第2項の規定により署名する。

平成 年 月 日

会 長

会議録署名委員

会議録署名委員